

(3) 大分県の水産業の現況について

大分県の海岸線の総延長は775km（全国14位）で、日本の三大干潟のひとつである豊前海からリアス海岸の豊後水道まで変化に富んだ海岸地形を有している。沿岸域は好漁場に恵まれており、海域ごとに特徴のある漁船漁業や養殖業が営まれている。

① 漁業経営体数と就業者数

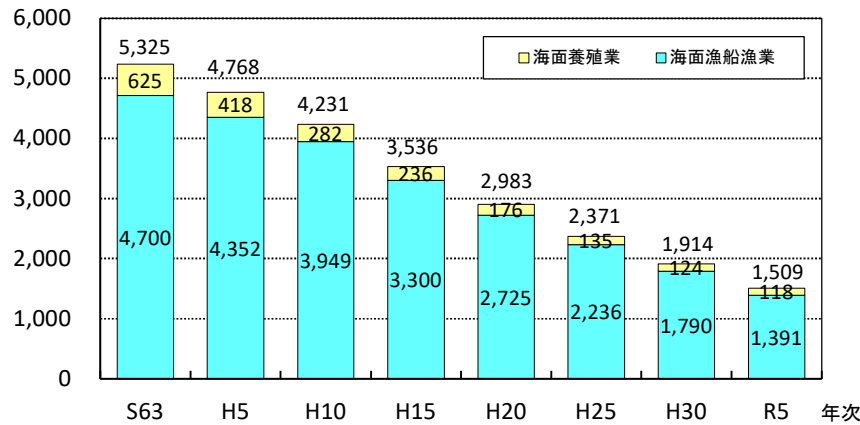
ア 漁業経営体数

漁業経営体数は昭和48年の6,825経営体をピークに減少が続き、令和5年は1,509経営体となっている。

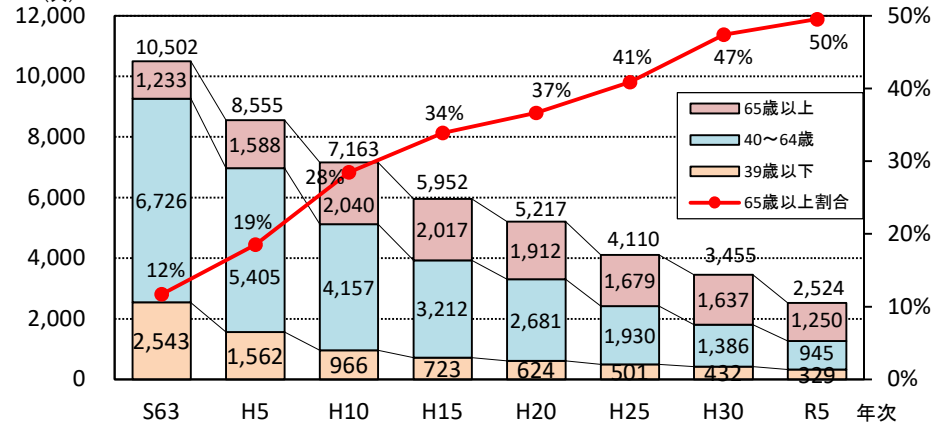
イ 漁業就業者数

令和5年の漁業就業者数は2,524人となっており、前回調査年（平成30年）の3,455人より931人減少した。また、就業者全体に占める65歳以上の割合は約50%となっており、就業者の高齢化が進んでいる。

《漁業経営体数の推移》
(経営体)



《漁業就業者数の推移》
(人)

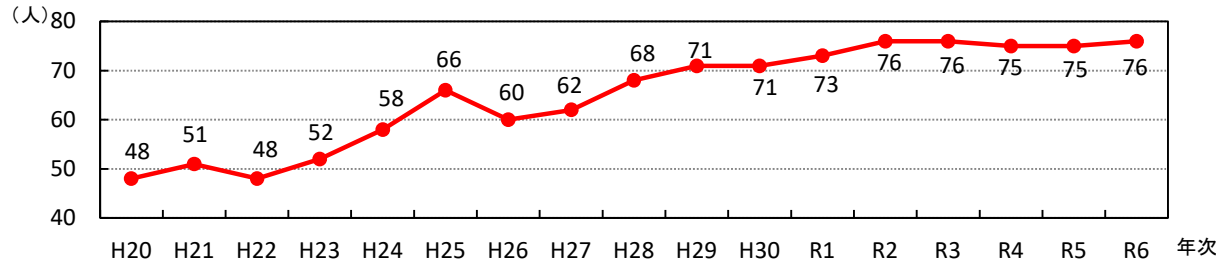


資料：2023年漁業センサス（農林水産省）

ウ 新規就業者数

魚類養殖等への就業が堅調に推移し、令和6年の新規就業者は76人となった。

《新規就業者数の推移》



② 漁業生産の概況

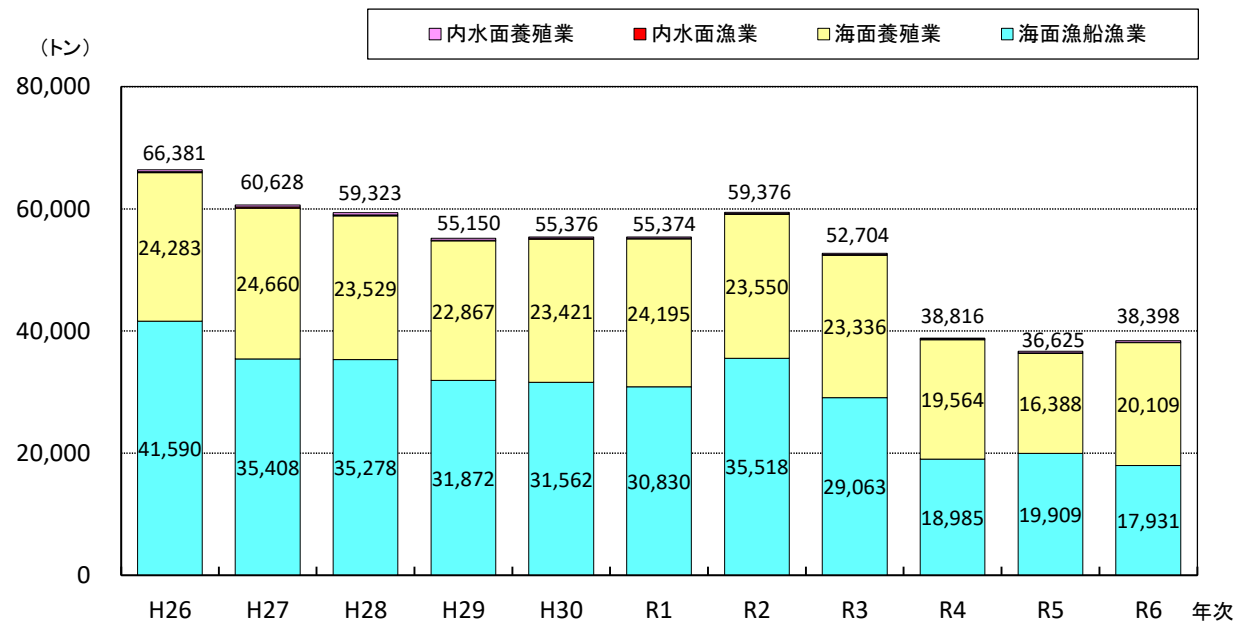
ア 漁業生産量

海面及び内水面の漁船漁業・養殖業の令和6年生産量は、イワシ類が減少した一方で、養殖ブリ類が増加したことにより、38,398トンとなり、前年より1,773トン（5%）増加した。

このうち、海面の生産量は38,040トンで、前年より1,743トン（5%）増加した。

また、内水面の生産量は358トンで全生産量に占める割合は0.9%となっている。

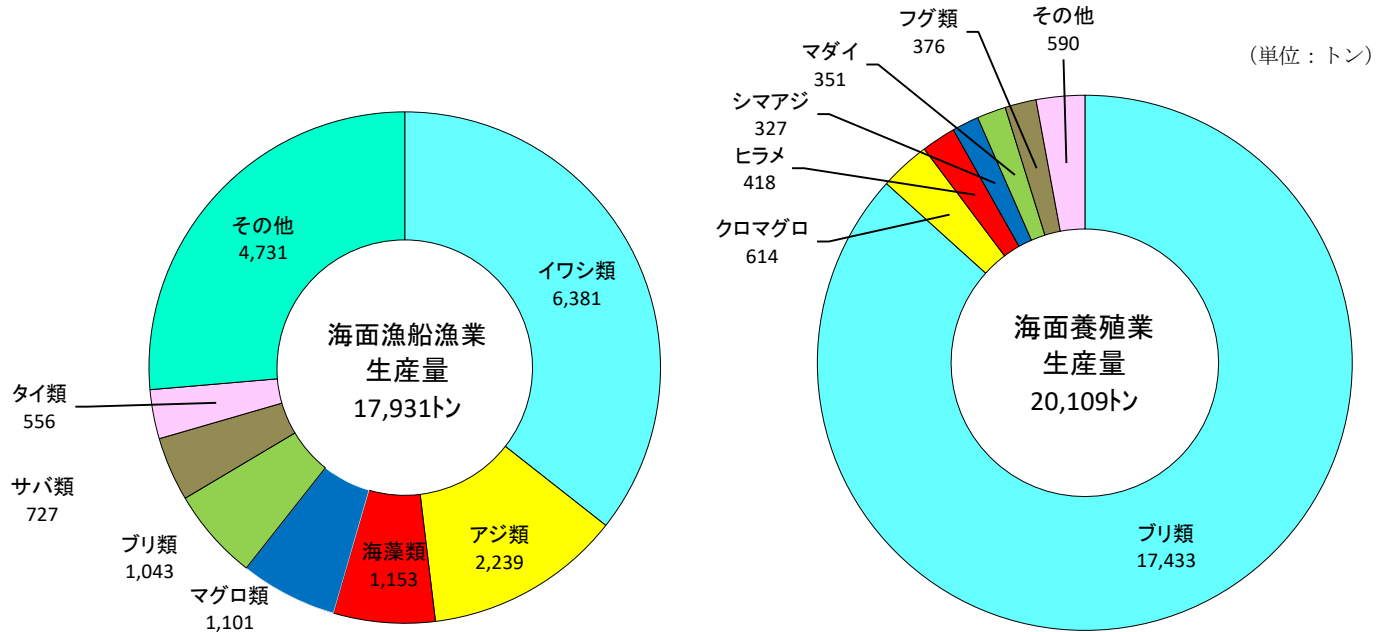
《漁業生産量の推移》



資料：漁業・養殖業生産統計（農林水産省）、県調べ

(主な魚種について)

主な魚種は、海面の漁船漁業ではイワシ類、アジ類、海藻類、養殖業ではブリ類、クロマグロ、ヒラメ等となっている。



資料：漁業・養殖業生産統計（農林水産省）

海面の漁船漁業・養殖業の魚種別生産量(令和6年次)

■海面の漁船漁業・養殖業の生産量全国上位魚種

- 1位：養殖ヒラメ
- 2位：その他海藻類(天然)
- 3位：養殖ブリ、養殖フグ類、その他海藻類（養殖）

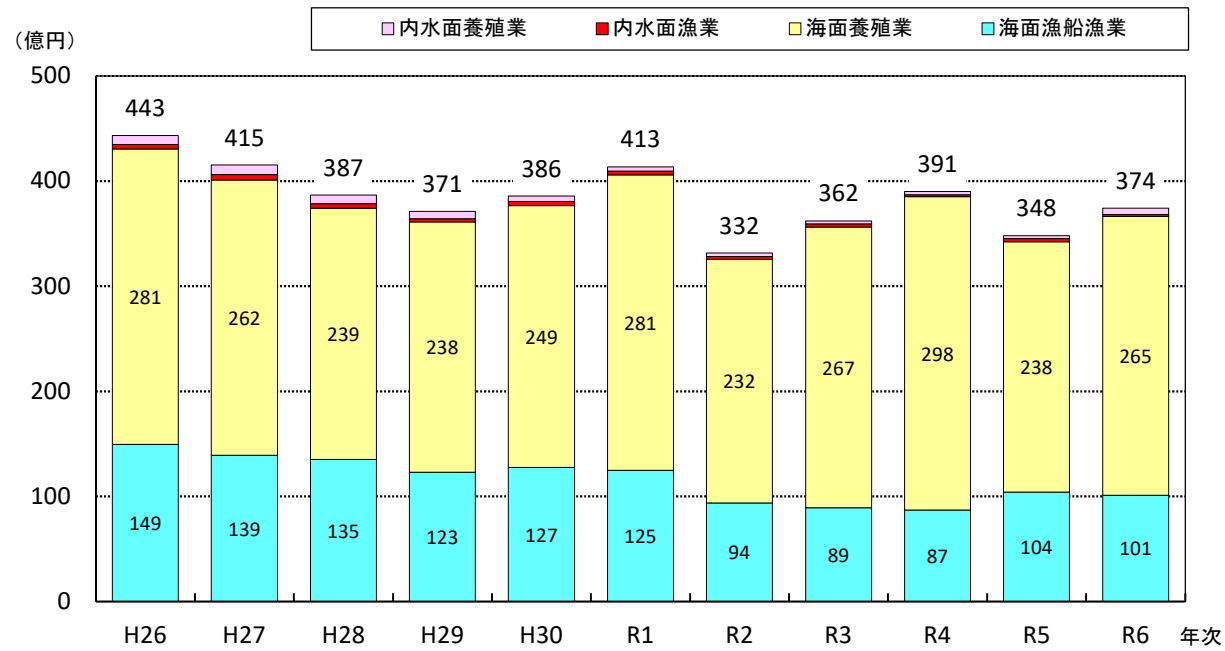
イ 水産業産出額

海面及び内水面の漁船漁業・養殖業の令和6年産出額は、漁業生産量の減少したものの、養殖ブリ類の価格が堅調に推移したことにより、374億円となり、前年より26億円（7%）増加した。

このうち、海面の産出額は366億円で、前年より24億円（7%）増加した。

また、内水面の産出額は8億円で全産出額に占める割合は2.1%となっている。

《水産業産出額の推移》



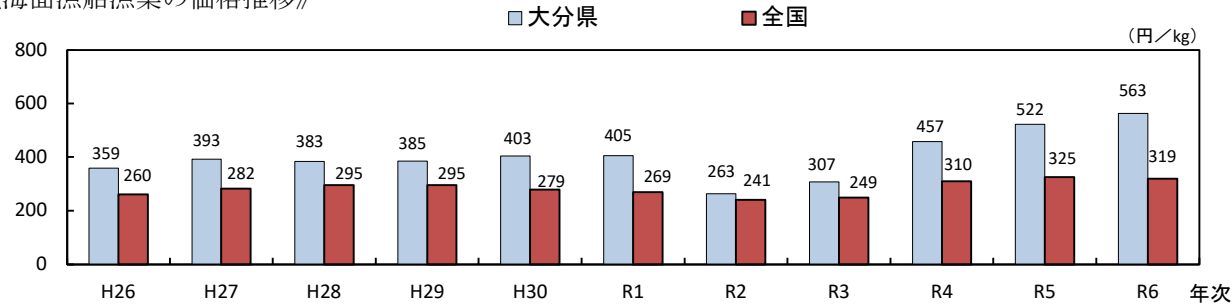
資料：漁業産出額（農林水産省）、県調べ

ウ 水産物価格

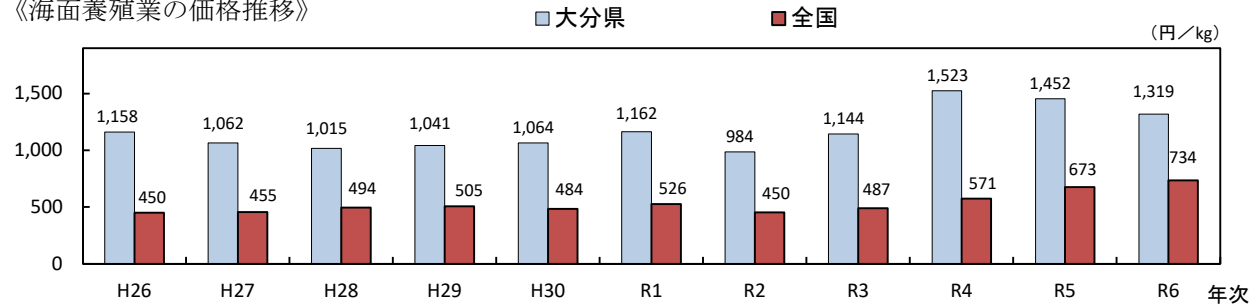
令和6年の水産物価格（産出額÷生産量）については、海面の漁船漁業では、需要の回復等により563円/kgとなり、前年より41円/kg上昇した。

海面の養殖業では1,319円/kgとなり、前年より133円/kg下落したものの、堅調な価格で推移している。また、海面の漁船漁業と養殖業を合計した価格は、前年より21円/kg上昇し、全国トップの価格となった。

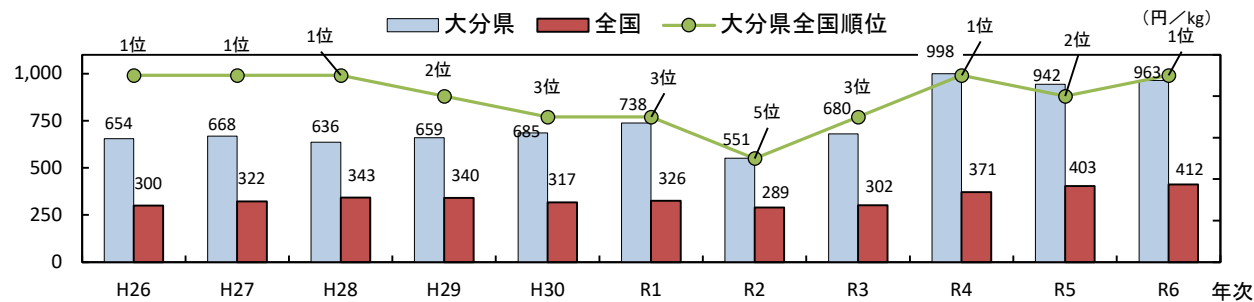
《海面漁船漁業の価格推移》



《海面養殖業の価格推移》



《海面漁船漁業・養殖業合計の価格推移》



資料：漁業・養殖業生産統計、
漁業産出額（農林水産省）